

実施グループ：2

事業名：プログラミング教育開発推進事業

担当課：教育委員会学校教育課

検証結果（検証委員挙手数）		検証結果（市民判定人）	
あり方の再検討	0人	あり方の再検討	0人
実施方法の再構築	1人	実施方法の再構築	1人
実施内容の改善	3人	実施内容の改善	7人
現行通りの実施	0人	現行通りの実施	10人

検証委員からの主な意見

- 施策内容の議論を通じて、新学習指導要領へ向けた準備という意味では的確に行われているとは感じたが、本施策の目的は、他自治体よりも一段高い教育、先行的取組であるため、引き続きそれらへ向け奮闘いただきたい。
- また、効果測定の基準は（少なくとも今後は）必要になると思われる。楽しいを中心としたアンケートだけでは心許ないと感じ、教員の教え方の評価という話にも通じる。
- 先駆的に実施されていることはとても良いことであると評価したうえで
 - ・子どもたちにどのくらいの状態になってほしいか達成状況を明確にすべき。
 - ・それを設定する上でも、他市や民間の情報は随時集め、福知山の参考に出来るものを探した方が良い。
 - ・今の機器が、目指す達成目標に対して最適なのかは常に考えるべきで、10年は長すぎる。
- 本格的な必須化を控えて、現状の問題点や不安点を解消していく必要があり、2～3年の指導要項ではなく、もっと先まで見通した計画が必要。学校へのサポート（ソフト・ハード両面）を行い、学校と教育委員会の両輪で行うことが重要。

市民判定人からの主な意見

事業内容について

【プログラミング教育の実施について】

- ・プログラミング教育の導入はすばらしいと思う（思考がどのように変化するか）。
- ・ロボットの組み立ての先にある思考の組み立て方を全教科へ広げていけたらと思う。
- ・プログラミング教育として、物に触れ、楽しく教育につなげてほしい。
- ・プログラミングし、ロボットを動かすのは、課題解決であり、問題解決でない。何のためにプログラミング的思考を教育するのかのベースをしっかりと持っておくことが必要。
- ・他市に先がけてプログラミング教育を取り入れられて実施されている、市の意欲が見られる。

【実施方法、内容等について】

- ・プログラミング教育を効果的に行うには教員全てが対応出来るように教育するよりも、適応性の高い教師を選定して（各小学校に1～2名程）、指導させる方が良いのでは？子どもはすぐに理解するし、指導者のレベルが問題となるはず。
- ・ロボットの組み立ては入り口であって技術・家庭の指導にして欲しくない。
- ・教材ありきではなくて、ツール+αの活用ができるかが期待値であり、市としてのビジョンが重要。
- ・高度な教育で個人の格差が生まれることが考えられますので、子どもが触れて活用できるように、

タブレット端末一人一台を目指して慎重にすすめてほしいと思います。6時間は少ないと思います。

- ・さらなる教材の使用法の工夫を期待します。
- ・プログラミング教育の今後の進め方、中学までの教育の進め方もきっちり予測することが必要だと思いました。6時間の時間が有効時間になるといいと思います。iPadとブロックの結びつきが今1つわからない。ブロックの有効活用も考えていただければいいと思います。
- ・時間的なこともある中で、1年取り組んで、その中で発展を考えて行くか？何を達成していくのかを考えて行くことが大切かなと思われました。
- ・小学1年生からの取り組みを望みます。小学3年生は英語の取り組みは賛成ですが、小学3年生も英語より知能を育むうえで、早期に取り組んでほしい。

事業の評価方法について

- ・実施する側の評価が必要と思われる。
- ・プログラミング（教育）を通して、何を子どもに学んでもらうのか、やった結果、教師も評価しないと意味ないことですので、きちんと評価を出してほしいです。目的がブレないように、常に実施目的の確認をしていく必要あると思います

その他

- ・年々、新しい技術等が進歩している。これに遅れない教材等の対応も必要と考えます。
- ・福知山市が、こういう事業を実施されるのはいいことだと思う。どんな授業でもそうだと思いますが、落ちこぼれた生徒の対策はできているのか？プログラミング教育を今やる必要があるのか。孫が惇明小（3年）に通っているが、まず日本語の理解力がどうかと思う。
- ・結果がでなくても、目的は必要だと思います。意欲向上のために推進されているのはわかりませんが、しっかりした組立を聴きたかったです。
- ・市内の工業高校と連携して、何か効率良く取り組めないか。
- ・指導される先生がおられるかどうかが一番大事だと思います。